

受託契約が 4 件から 11 件に増加！ SkeedSilverBullet™が加速するフィリピンを拠点にした プリプレス&デザインのアウトソーシング事業

近年、海外の豊かな労働市場を求めてアウトソーシングを活用するケースは枚挙に暇がなく、アジア諸国に拠点を構える事業者も数多い。ただし、いくら現地の生産効率や品質、言語対応などの差別化を図ろうとも、日本とのデータのやり取りがスムーズにいかない状況ではその効果は十分に発揮しにくい。

フィリピンで日本向けにプリプレス（印刷前工程）のアウトソースを請け負う Creative Media Management Co Ltd 様でも、同様の課題にぶつかった。しかし、同社は SkeedSilverBullet™を導入しこの課題を解消、見事に生産性向上と受注増を果たしている。

課題

- フィリピンで日本からのプリプレス処理を受託するに際し、45Mbps×2本の共有回線でFTPを使いファイルを受受。しかし、業務量の増加とともに朝受注して当日中に納品するというサイクルが順守できなくなりつつあった。
 - フィリピンから日本の印刷工場への納品所要時間は1GBのファイル転送に香港経由で60分以上、台湾経由なら111分以上
 - 専用線でないこともあり、他の通信トラフィックなど様々な影響を受け転送スピードが不安定化
 - 東京AWSのサーバからフィリピンに作業用ファイルをダウンロードする際にも長時間要し、作業着手自体が予定よりも後方にずれ業務に支障

検討プロセス

- 日本のIT情報サイトに掲載されていたSkeedSilverBullet™の記事をみて初めて認識したが半信半疑。開発元がSkeedという日本の無名ベンチャーであること、大企業ですら高価な専用線やWANアクセラレータを導入しても僅かな改善しか見込めない「難問」であることなどがその理由
- しかし、SkeedSilverBullet™の体験版を使用し、当初の予想を遥かに上回る結果に購入を即決

導入効果

- 導入後8カ月を経た現在、導入前4件だった契約先が11件に増加
- 1日当たり往復30GBの転送を実現
- FTPでは60分掛っていた転送時間を4分未満に短縮
- 回線が不安定な際も、転送速度に大きな影響がなく転送を安定化



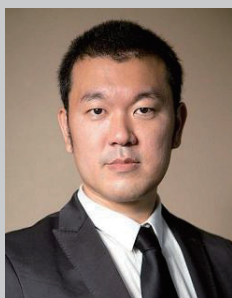
■コスト、品質、言語そして時差1時間の優位性に着目しフィリピンに拠点。ただし、ネットワークに課題

Creative Media Management Co Ltd（略称CMM、以下同じ）では、フィリピンにオペレーション本部を設置し日本向けのプリプレス（印刷前工程である文字入力や誌面レイアウト、画像処理、ページデザインなど）を受託するアウトソーシング事業を行っている。処理される印刷用ファイルの流れを概略すると、まず東京にあるAmazonWebService（略称AWS）のサーバに日本側顧客企業が印刷用の素材データをアップロードし、それをCMMがフィリピンにダウンロードする。その後、現地でプリプレス処理を終えたファイルを日本の印刷工場やクライアント側のサーバに転送・納品するというもの。

それにしても、なぜプリプレス事業をフィリピンで行うのか。代表取締役の片岡孝博氏は次のように説明する。「リーマンショック以降、世界的不況の影響もあり日本国内の広告代理店や印刷会社もコスト削減に力を入れています。デザイナーやDTPスタッフを削減してしまうと逆に生産性も低下します。そこで当社は、日本に近く英語も通じ人件費も安いフィリピンに注目したということです」

同社の設立は2009年9月であり、まだ4年に満たない。しかし、日本国内で同様の外注を行う場合に比べ半分以上のコストに収まり、日本人ベテランスタッフによる指導と管理が徹底していること、日本との時差が1時間しかなく日中の営業時間帯に合わせたやり取りができることなどからコスト、品質、業務連携のし易さが高く評価されている。

ところで、日本とフィリピンの距離は約3000km。隣国であり意外に近いともいえるのだが、回線品質はあまり恵まれたものではない。「フィリピンから日本までは45Mbpsの回線を2本契約していますが、この回線は専用線ではないため他の様々な要因をうけてスピードが変化します。以前はFTPで転送していましたが、業務量が増えるにつれ納期に合わせる事



Creative Media Management Co Ltd
代表取締役

片岡 孝博 氏



Creative Media Management Co Ltd
(CMM)

所在地 (オペレーション本部)
6FJakaBldg, 6780AyalaAve, Makati,
Philippines

設立 : 2009年9月

人員数 : 70名 (2013年3月1日現在)

業務内容 : プリプレス、グラフィック &
WEBデザイン

が困難になってきました」(片岡氏)

たとえば、同社が計測したところではフィリピンから日本の印刷工場に向けて FTP で 1GB のファイルを転送するのに香港経由で 60 分以上、台湾経由なら 111 分以上かかる。しかし、納品先である印刷会社には朝注文があれば当日中に納品する必要がある、いくら作業の効率化を図っても転送時間が長ければ顧客にとって同社を使うメリットは薄れてしまう。さらにいえば作業の前段の、日本の顧客が AWS サーバにアップした作業用ファイルをフィリピンにダウンロードする際に時間がかかれば、その分、作業着手時間も後退することになり、結果として業務に支障を来すことにもなる。とはいえ、専用線を引くことなどは高コストで選択肢には入れ難く打開策は見い出せないままであった。

■ IT 情報サイトの掲載記事を読み半信半疑のままテストを実施。結果を受けて購入即決！

そんなある日、日本の IT 情報サイトに掲載されていた SkeedSilverBullet™ の記事に目が止まった。「そこには FTP の数十倍の転送速度といった内容が書かれていました。でも正直にいうと全然信用できませんでした」。当時の心境を片岡氏は率直に語った。

“信用できない” ことには理由があった。それまでファイル転送といえば FTP や SFTP というツールを使うのが一般的であり、高速化したいと思っても資本金のある大企業ですら高コストな専用線を引くか、WAN アクセラレータなどを導入して少し速度を上げるという程度の期待しか持てないような“難問”であったからだ。まして、開発した企業はまだ無名の日本のベンチャーだったのである。

そこで、半信半疑のまま Skeed に直接問い合わせをし、体験版を使ってみることにした。その結果は当初の予想を遥かに超えるものだったようだ。「テスト結果をみて驚きました。今までの苦労は何だったのかという感じです。とにかく、購入を即決しました」(片岡氏)

CMM ではその後、さらに SkeedSilverBullet™ を追加導入し、作業用ファイルのダウンロードおよび納品先への転送能力をともに大幅に強化した。

■ 転送時間 60 分を 4 分以内に短縮。圧倒的なパフォーマンスで受注増に貢献

最初の SkeedSilverBullet™ 導入から 8 カ月が経過した現在、顧客との間で行き交いするファイルの大きさは 100MB から 1GB 程度まで様々だが、合計で 1 日あたり往復 30GB 程度になる。この転送量は従来使用していた FTP ではまず不可能な数値である。「SkeedSilverBullet™ では FTP で 60 分掛っていた転送が 4 分以内に短縮できました。また、回線が不安定な時でも転送速度が特に落ちることもなく、安定して転送できています」(片岡氏)

CMM にとっては、この転送能力の向上は単に納期順守という効果に留まらず、事業推進に向けての大きな武器にもなっている。「日本からの仕事はとりやすくなりました。やはりスピードを気にされるお客様が多いので SkeedSilverBullet™ 導入以前は 4 社だった顧客が、導入後に 7 社から新規ご契約をいただき現在 11 社に増えています」(片岡氏)

特に海外へのアウトソースサービスを利用する場合、発注側が最も気にする点の 1 つにこのファイル転送時間、そして転送可能なファイル容量という大きな制約があったということだろう。その課題をクリアした同社が、顧客獲得を増していくことは大いに納得できることだ。また、こうした貢献こそが SkeedSilverBullet™ が持つ本来的価値ともいえる。なお、余談だが片岡氏はインタビューの最後にひと言、こう呟いた。「それにしても、SkeedSilverBullet™ を使用している今でもこのスピードが信じられません」